



スマートフォンとのフレキシブルな統合を実現する ボッシュのソリューション 「mySPIN」を通じて約 50 のアプリをグローバルに提供 中国 IT 企業の Tencent 社と連携

2015 年 12 月 2 日
PI 9132 CM Ks/af

- ▶ 「mySPIN」を通じて約 50 のアプリをグローバルに提供 – 類似システムの 3 倍のアプリ数
- ▶ 中国での成功: 自動車メーカーの JAC と長安フォードから受注。「WeChat」運営会社の Tencent 社と連携。
- ▶ 将来的に「mySPIN」は、アプリへの車両データの提供も担う

運転中にスマートフォンのナビゲーション、ストリーミングサービスやカレンダーの利用を、運転ルールを守りながら、しかもユーザーフレンドリーに実現するのが、ボッシュのスマートフォン連携ソリューション「mySPIN」です。2014 年以降のジャガー ランドローバーの全車種に採用されているボッシュのこの技術は、iOS や Android ベースのスマートフォンを車両に接続します。この「mySPIN」があれば、スマートフォンを手にとらなくても、ボッシュによって最適化されたアプリをセンターコンソールのタッチスクリーン上で操作することが出来ます。ボッシュはこの OEM ソリューションをさらに普及させるために、中国で大きな一歩を踏み出しました。この統合ソリューションが自動車メーカーの JAC と長安フォードのモデルに装備されることになっただけでなく、中国 IT 企業の Tencent 社と企業間協定の締結を行いました。「mySPIN」に対応できるよう機能が強化されたアプリの数は 2013 年以降着実に増え続け、現在は約 50 に達しており、これは同等のシステムで利用可能なアプリの 3 倍に相当します。なかでも特に重点を置いているアプリは、TomTom、Parkopedia、Hotelseeker、Audials などのナビゲーションやメディアアプリです。

中国で急速に拡大

ボッシュのパートナーとなった Tencent は中国の三大インターネット企業の 1 つで、「QQ Music」などのサービスやモバイル通信アプリ「WeChat」は 5 億人を超えるユーザーに利用されています。Tencent は現在、運転中に使用可能な通信サービスを選択できるようにする「mySPIN」向けのアプリを最適化することを目指しています。この新しいサービスが実現すれば、「mySPIN」アプリケーションの製品ポートフォリオがさらに

充実するだけでなく、中国市場に対応したサービスの数もいっそう増えることとなります。また、中国自動車メーカーの JAC は 2016 年から新モデルで「mySPIN」の提供を開始する予定で、ドライバーは運転中に便利な各種アプリケーションにアクセスする機会が増える見込みです。さらに 2017 年には、自動車メーカーの長安フォードがこれに続く予定です。

新しいアプリにつながる画期的な道すじ

ポッシュは「mySPIN」向けのアプリを選択するに当たって、TomTom などの大手プロバイダーだけでなく、別の方向性の新たなパートナーとの協力関係も模索しており、独自に開発されたアプリである Drivelog や Familo 社などの新興企業とも連携はその一例です。そして、たとえばこの独自アプリは、ポッシュが開催したハッカソン(プログラマー、ソフトウェア開発者、デザイナーやプロジェクトマネージャーが短期間集まり、ソフトウェアプログラムの共同開発に集中的に取り組むイベント)で最も賞賛されたアプリです。こうした数多くのアプローチを通じて、ポッシュは評価の高いアプリを利用することができる一方、革新力のある新しいアプリプロバイダーは自動車を運転するユーザーを獲得するチャンスが得られるという双方のメリットが生み出しています。

車両データを有効に活用

「mySPIN」のユニークな構造によって、自動車メーカーはユーザーが使用できるアプリやユーザーインターフェースのデザイン、また入手可能な情報によって何が起きるかを常にコントロールすることができます。「自動車メーカーが今まで以上に信頼に足るパートナーとなるため、ドライバーにとってもメリットとなります」と述べるのは、Bosch SoftTec GmbH のマネジングディレクターを務める Torsten Mlasko です。将来的には、自動車メーカーは「mySPIN」を介して、車両データもアプリに提供できるようになる見込みです。これが実現すれば、タイヤ空気圧や燃料の残量などに関するデータをアプリ側でも利用することが出来ます。例えば、燃料計がリザーブレベルに達している場合にのみ、安値のガソリンスタンドの情報提供すること等が可能になります。

「mySPIN」用として承認を受けたアプリはすべて、走行中も使用できるような特別設計となっており、ドライバーの注意を極力そらさないよう、安全性もしっかり配慮されています。さらに、アプリ開発者にはソフトウェア開発キットが提供されるため、アプリケーション開発の技術的障害もさほど大きくありません。また、自動車メーカーは特定の車両でどのアプリを使用するかをそれぞれ設定することができ、いわゆる「ホワイトリスト」により、どれをフレキシブルにアップデート／拡張できるかを定義できます。iOS および Android スマートフォンに対応するだけでなく、Windows フォン向けのソリューションがすでにプロトタイプで実現しており、要望に応じて自動車メーカーに提供可能です。

Simply.Connected.

ラスベガス(米国ネバダ州)で開催される [CES 2016](#) のボッシュ関連のイベントにぜひお越しください。

2016年1月5日(火)08:00~08:45(現地時間): [フォルクマル・デナー](#)(ボッシュ取締役会会長)による**記者会見**(マンダレイ・ベイ・ホテル、サウスコンベンションセンター、3F、バンヤンルーム A-D)

2016年1月6日(水)~9日(土):

ボッシュのブース:「スマートホーム、スマートシティと Industry 4.0 のためのソリューション」(スマートホーム マーケットプレイス、サンズエキスポセンター、#71517)+「コネクテッドモビリティ」(北ホール、#2302)

CES 2016におけるボッシュのハイライトのツイッターでの紹介: [#BoschCES](#)

報道用画像: 1-CM-21209

報道関係対応窓口:

Stephan Kraus

電話: +49 711 811-6286

ボッシュ・グループ概要

モビリティ ソリューションズは、ボッシュ・グループ最大の事業セクターです。2014年の売上高は333億ユーロで総売上高の約68%を占めています。モビリティ ソリューションズの売上により、ボッシュ・グループはリーディングサプライヤーの地位を確立しています。モビリティ ソリューションズは、自動化、電動化、ネットワーク化の3つの領域においてその専門性を統合させ、お客様にトータルソリューションを提供します。その事業領域は主に、内燃機関の燃料噴射テクノロジー/パワートレイン周辺機器、パワートレイン電動化の様々なソリューション、安全システム、ドライバーアシスタンス システム/自動化機能、ユーザーフレンドリーなインフォテインメントやVehicle-to-Vehicle(車車間)およびVehicle-to-infrastructure(路車間)通信、オートモーティブアフターマーケット向けのコンセプト/テクノロジー/サービスなどです。さらにボッシュは、電気駆動マネジメントや横滑り防止装置 ESG(エレクトロニック スタビリティ コントロール)、ディーゼル用コモンレールシステムなどの重要な革新自動車技術にも対応しています。

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディング・カンパニーです。2014年の従業員数は約360,000人(2015年4月1日現在)、売上高は490億ユーロ*を計上しています。事業はモビリティ ソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・建築関連テクノロジーの4事業セクター体制で運営しています。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社約440社、世界約60カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売、サービス代理店のネットワークを加えると、世界の約150カ国で事業展開しています。この開発、製造、販売のグローバル・ネットワークが、ボッシュのさらなる成長の基盤です。2014年に ボッシュは全世界で約4,600件の国際特許の基礎特許(第一国出願)を出願しています。私たちボッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたイノベーションの提供を戦略的目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じ、人々の生活の質を向上します。つまりボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」-人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。

*公表された2014年の売上高には、現在では完全子会社化されたかつての折半出資の合併会社である BSH Bosch und Siemens Hausgeräte GmbH(現在は BSH Hausgeräte GmbH に社名変更)お

よびZF Lenksysteme GmbH (現在はRobert Bosch Automotive Steering GmbHに社名変更) は含まれていません。

さらに詳しい情報は 以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト(英語)

www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス(英語)

<https://twitter.com/BoschPresse> ボッシュ・メディア 公式ツイッター(ドイツ語)

www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト(日本語)

<https://twitter.com/Boschjapan> ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター(日本語)

<https://www.facebook.com/bosch.co.jp> ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック(日本語)

<https://www.youtube.com/boschjp> ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube(日本語)